

中間貯蔵施設に係る見通しと進捗状況について

別添7

- 中間貯蔵施設事業は、2016年3月公表の「当面5年間の見通し」の**最大ケースに沿って進捗**。
- **2019年度までに累計650万m³程度の除去土壌等を輸送し、2020年には身近な場所から仮置場をなくすことを目指す。**

年度	用地取得（累計）		輸送量（各年度）		施設整備
	見通し	実績	見通し・事業方針	実績	
2015	22ha程度 (2016年3月25日時点)	約22ha	5万m ³ 程度	約4万5千m ³	<ul style="list-style-type: none"> 中間貯蔵施設の保管場を整備 2016年度以降も随時必要な保管場を整備
2016	140～370ha程度	約376ha	15万m ³ 程度	約18万4千m ³ (累計約23万m ³)	<ul style="list-style-type: none"> 9月 仮設焼却施設(大熊町)着工 11月 土壌貯蔵、受入・分別施設着工
2017	370～830ha程度	約844ha [2月末時点] ※用地全体のうち約52.8%超	30～50万m ³ 程度 →50万m ³ 程度	約52万4千m ³ [3月27日時点] (累計約75万m ³)	<ul style="list-style-type: none"> 6月 受入・分別施設の試運転開始 10月 土壌貯蔵施設、受入・分別施設の運転開始 12月 仮設焼却施設(大熊町)火入れ式 双葉町の仮設焼却施設及び灰処理施設着工予定(2019年度稼働予定) 廃棄物貯蔵施設の整備に着手予定(2019年度内稼働予定)
2018	400～940ha程度		90万～180万m ³ 程度 →180万m ³ 程度		
2019	520～1,040ha程度		160万～400万m ³ 程度 →400万m ³ 程度を目指す		<ul style="list-style-type: none"> 双葉町の仮設焼却施設及び灰処理施設の稼働予定 廃棄物貯蔵施設稼働予定
2020	640～1,150ha程度 (予定地全体面積約1,600ha)		200万～600万m ³ 程度 (累計最大1,250万m ³ 程度)		

※ 中間貯蔵施設に係る「当面5年間の見通し」は、2016年3月公表。事業の進捗状況を踏まえ、必要に応じて随時見直しを行う。

※ 福島県内の除去土壌等の発生量は、2018年3月時点の推計で約1,600万m³(焼却前)。